

自己評価報告書

平成23年5月16日現在

機関番号：14201
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20720130
 研究課題名（和文） 認知類型論からみた英語自動詞構文の特徴：エスキモー語、日本語との対照を中心に
 研究課題名（英文） On the Characteristics of English Intransitive Constructions: A Comparative Study with Eskimo and Japanese
 研究代表者
 田村 幸誠（TAMURA YUKISHIGE）
 滋賀大学・教育学部・准教授
 研究者番号：30397517

研究代表者の研究分野：英語学・認知類型論

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：自動詞構文、認知類型論、様態と移動、エスキモー語

1. 研究計画の概要

本研究の目的は言語系統・タイプの異なる3つの言語の対照分析を行うことで、西洋言語中心に進められる傾向にある理論化の是非を考えることにある。特に4年間で自動詞の特徴を中心に研究を進める。

2. 研究の進捗状況

(1) エスキモー語に関しては3度のフィールドワークを行い、毎年、様態・音移動、(反)受動文などテーマを決めて行っている。データも集まってきている。

(2) 今後の課題は研究発表した内容を査読付き論文集により積極的に投稿することである。これは最終年度の一番の目標である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。当初の目的であったエスキモー語のデータ収集は順調に進んでおり、インフォーマントの方との調査も円滑に進むようになってきた。また、国際学会でも発表ができ、示唆に富む意見をいただくことが出来た。

4. 今後の研究の推進方策

今年度の課題はこれまでの研究成果を学術論文としてまとめることにある。自動詞に関して、3つの学会発表を行ったが、どれもまだまとまった形の論文にしていない。データ収集、おおむね分析等は済んでいるので「論

文化」を今年度の最大の目標にしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①Tamura, Yuki-Shige & Miyagi Sadamitsu
 “Bridging the Gap between Grammar Instruction and Cross-Cultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classroom”
 (『認知言語学論考 vol. 9: 245-277』2010年 査読あり)

②Tamura, Yuki-Shige & Miyagi Sadamitsu
 “Bridging the Gap between Grammar Instruction and Cross-Cultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classroom”
Proceedings of the 42nd Annual Meeting of the British Association for Applied Linguistics, 139-142: 2010年 査読あり

③田村幸誠

「自動詞様態移動構文に関する通言語的考察：意味地図の観点から」(日本認知言語学会論文集8：641-644；2008年 査読なし)

[学会発表] (計6件)

① Sadamitsu Miyagi & Yuki-Shige Tamura

“Grammar Instruction that works along with Intercultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classroom” the 4th Free Linguistics Conference at University of Sydney 2010年10月10日

(国際学会査読有り)

② Tamura, Yuki-Shige

“A Patient-Oriented View of Force Dynamics and the Relationship between Indirect Passives and Causative Construction” the Conference of Conceptual Structure, Discourse and Language, at University of California San Diego 2010年9月20日 (国際学会査読有り)

③ 田村幸誠

「受益と使役の連続性と曖昧性について：英語、日本語、ユピック語の対照分析を中心に」第23回 福岡認知言語学会 於 西南学院大学 2010年8月28日

④ 田村幸誠

「能格言語からみた対格言語に生じる受身と使役の曖昧性について：ユピック語、英語、日本語の対照分析を中心に」京都言語学コロキウム 於 京都大学 2010年3月27日

⑤ Tamura, Yuki-Shige & Miyagi Sadamitsu

“Bridging the Gap between Grammar Instruction and Intercultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Class” 42nd Annual Meeting of the British Association for Applied Linguistics at Newcastle University 2009年9月5日

(国際学会査読有り)

⑥ 田村幸誠

「認知類型論からみた日本語とユピック語の相互構文」第52回 中部日本・日本語学研究会 於 刈谷市産業振興センター 2009年5月16日

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他]

<参考> 翻訳書 (単独訳)

『そして、僕は OED を読んだ』

原題：Reading the OED: One Man, One Year, 21,730 pages (by Ammon Shea)
(全 304 ページ)

<参考> エッセイ (フィールド調査に基づく)

「失われていくものと残したいもの：

アラスカ・エスキモー (1)(2)」

『Teaching English Now: 英語教師のための情報誌 (vol.19/20)』三省堂 (裏表紙) 連載の第一回/第2回